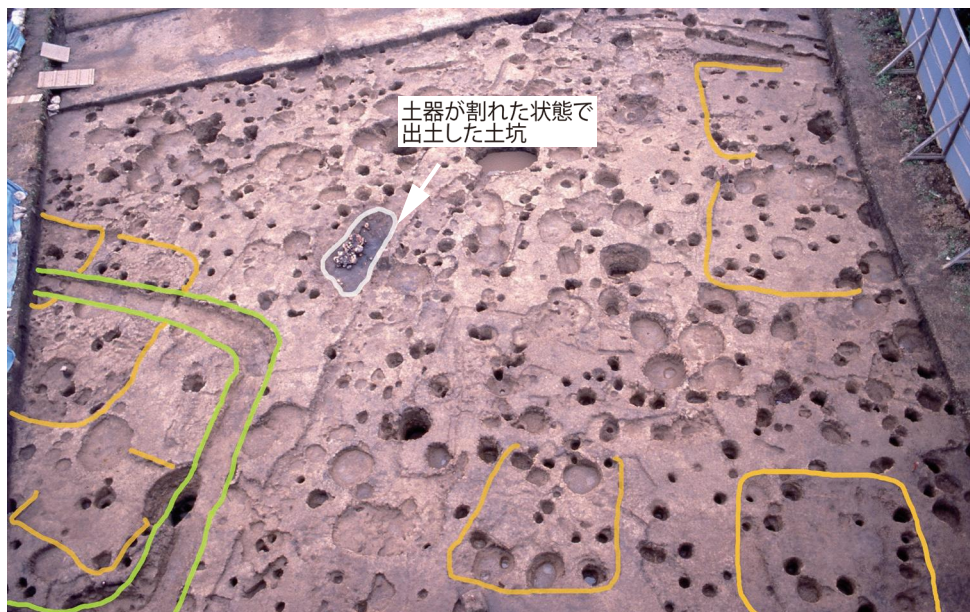


足立区最大の遺跡

所在地：東伊興・伊興本町



伊興遺跡
(縦最大26.25m 横最大28.5m 調査面積540㎡)

→ 方形周溝墓
→ 堅穴住居址

伊興遺跡で発見された、住居址群と墓の周囲を方形や長方形の溝で区画した方形周溝墓。

伊興・谷下・狭間遺跡

■ 伊興遺跡について

伊興・谷下・狭間遺跡は足立区で最大の面積を誇る古墳時代を中心とする集落跡です。伊興遺跡は河川によって上流から運ばれてきた土砂などが流路沿いに堆積し、低地より高くなった微高地上に発達した集落跡の集合体ととらえられています。

■ 伊興遺跡の発掘調査

かつて、伊興地区(東伊興4丁目付近)は伊興遺跡の中心地であったことが明らかになっています。また、祈りの儀式である祭祀に使用された飾りや土器が多数見つかることから、祭祀遺跡としての性格も持ち合わせていたようです。古墳時代前期から中期(3世紀～5世紀)にかけて、祭祀が最も盛んに行われていたようです。

■ 祭祀の器物

祭祀に使用した器物は日常の生活用品としての使い方とは違っていため、不自然にまとまって出土します。整然と並べられ、埋め置かれた場合もあれば、投げ込まれ、故意に破壊されたような出土の仕方をしたものもありました。祭祀の形態には様々のものがあつたようです。



多量の土器が割れた状態で出土



復元された土器

写真のような土器(甕)が口を下に向けて2列に平行に並んでいた